



～子ども子どもによる、子どものためのいじめ撲滅隊～ 「辰沼キッズレスキュー（T・K・R）」始動！

足立区立辰沼小学校の新しい「いじめ対策」の取組みである「辰沼キッズレスキュー」がいよいよ始動しました。

昨今の「いじめ対策」の取組みは大人が活動の中心となる対策が主です。いじめは、大人の責任であり、大人が頑張るのは当然です。しかし、「いじめ」は子どもの社会で起きています。そして、「大人が子どもの心を知るには限界があること」、「自分の悩みを本当に分かってくれるのは友達であり、子ども同士であること」といった現状や子どもたちの意見から、子どもたち同士が助け合い、自分たちの環境を変えることで、自分たちの世界で起こるいじめを防止・撲滅する「辰沼キッズレスキュー」を設立しました。

「いじめを、しない、させない、許さない」をスローガンに、子どもたちが自ら学校内で起こるいじめを、防止に主眼をおいて、撲滅活動をしていきます。

1 名称 「辰沼キッズレスキュー」

Tatunuma Kids Resucue の頭文字をとって「T・K・R」ともいう。

※名前は4年生以上が構成する児童会の役員と代表委員で考案。

2 隊員数 11月8日現在 隊員数180名（全校児童466名）

※今年度は児童会役員及び代表委員が隊員を兼ね、また、随時、入隊員募集している。

3 活動理念：スローガン 「いじめを、しない、させない、許さない」

4 隊規及び活動内容

別紙「辰沼キッズレスキュー（T・K・R）入隊申し込み書」参照

5 スケジュール

10月 8日（月）全校朝礼にて校長が予告

10月22日（月）全校朝礼時に正式に発足。体育館にて出陣式実施。

11月14日（水）辰沼キッズレスキュー結団式（午後1時30分 体育館）

11月21日（水）パトロール開始（原則、毎日10:25～10:45）

12月以降の予定 「うれしい言葉」運動、「標語作りと決意宣言」などの活動
（変更の可能性あり）

子どもによるいじめ防止活動が重要な理由

1 生きる力をつけるには

つらい体験の後に肯定的感情を体験することで、つらさに耐え、対人関係のストレスが調整できるようになり、生きる力が育つ。つまりトラブルを、子どもに解決させる経験をさせる営みが生きる力を育てる。

2 対立やトラブルなどに対する見方

第1：対立は、個性、ものの見方、立場の違いから生じる。むしろ、対立が起こるのは自然なことであり、対立を発生させないのは不可能といえる。むしろ争いごとを通して、どうしたら共存できるかを考えさせることが重要である。

第2：トラブルをマイナス事態とみるのではなく、環境や人生を改善する貴重なチャンスと捉え、自己解決能力を高めるためにも重要である。つまり、トラブルは避けられないと認め、解決を通して問題解決力が育つ機会と捉えることが重要である。

第3：争いの際の視点を、相手への不満を向けるのではなく、対立の問題となっている事柄、考え方、価値観などに目を向けさせることが重要である。そのためには、話し合いはお互いに相手を非難しないというルールを確認し合ってから始めることが大切である。

3 あるべき教師の姿勢

従来は、トラブルを解決するために、教師が介入し、解決した。しかし、防止のために重要なのは、児童に問題解決力をつけることである。教師は、自分のクラスのトラブルは、教師自身の指導力不足を問われ「トラブル発生自体を悪」としがちである。その結果、早く問題を解決しようと、当事者から十分な聞き取りをせず、一方的に裁定をしがちである。しかし、これでは児童は育たない。これからは、争いごとを解決していく経験をさせる指導が重要である。暴力によらない争いの代替的解決方法を身に付けさせる姿勢を持つべきである。

4. いじめ問題で重要なこと

我々は、いじめが起こると、加害者に意識がいくが、じつは傍観者こそが問題である。傍観者が多い環境では、いじめは堂々で行われるからだ。人は、環境の中で生きている。よって、重要なのは、いじめが起きにくい環境を構築することが大切である。いじめは、一度起これば、解決をしても、被害者の心には再発への恐怖が残り、真の解決は難しい。よって、いじめが起きにくい環境を構築し、いじめを予防することこそが、真の解決である。

5. いじめが起きにくい環境を作るには・・・教師には、レスキューではなく、**サポートの視点が重要!**

- ・レスキュー(救助) ⇒当事者に代わって、問題を抱え込んだり、事態の收拾をつけ、トラブルを解決したりすること。児童から解決力を奪い依存させる危険性がある。
- ・サポート(支援) ⇒児童に責任を促し、事態の收拾をつけるよう促すこと。児童を自立させ、解決力を育成することができる。親和的な学級を形成することと児童に解決させる実践をさせること。

6、まとめ

トラブル発生時に簡単に謝らせたり、握手させたりして終わらせないこと。むしろ、トラブルは、問題解決力育成のチャンスとみて、積極的に掘り起こし、その解決活動の過程から学ぶことが重視である。たしかに、クラスでトラブルがあれば、他の教員の目もあるし保護者からの苦情もあるかもしれない。また児童も、はやく先生に解決してほしい、と助けを求めたい心境かもしれない。しかし、トラブルを抱えた状態の不快感から逃げずに、向き合う、しかも暴力的でないやり方で何らかの糸口を見出す、こういう積み重ねが児童に最悪の事態を避ける力を育むのである。

「教育は、種まき」。我々は、なんとわれようと、「児童に問題解決力」をつける営みをすべきだ。

辰沼キッズレスキュー (T・K・R) の規則

〈隊規その1〉私は、絶対にいじめをしません。

「いじめ」は卑怯であり犯罪につながることもある。「いじめる側」が悪い。

〈隊規その2〉私は、いじめを見て見ぬふりはしません。

「見て見ぬふり」は、「いじめ」を認めているのと同じです。面白がってはやし立てたりするようなことも、「いじめている」のと同じです。傍観者にはなりません。

〈隊規その3〉私は、いじめを止めます。

いじめは、止めなければ続きます。一人一人が勇気をもって「やめろ！と声をあげることが大切です。一人で言えなければ、仲間と力を合わせ、いじめを止めます。

〈隊規その4〉私は、一人ひとりの違いを受け入れます。

人は、見かけ・感じ方・考え方、が違って当たり前です。「いじめ」や「差別」は、他の人を排除する行為で、人の生きる権利を侵害する行いです。互いに、認め合おう。

〈隊規その5〉隊員がいじめをしたら、**隊員資格を取りあげます。**

ただし、その後、反省文と人に親切な行為を3回やって、それらが役員会（隊長と副隊長、班長）の2分の1以上に認められれば、復帰できます。

予定している活動

私たちは、守られるだけでなく、いじめの予防と解決に向かって活動する。

●パトロール

2班ごとに、中休みにパトロールを行う。

校内（児童会室、3階、4階、2階、児童会室の順でまわる）と校庭

（やり方）①班員が、旗、鉢巻、腕章をつけをパトロールする。

②パトロール中は、班長「みんなで、いじめをなくしましょう」と声を出す。

続いて、班員が「いじめを、しない、させない、許さない」という。

これを、言いながら校舎内や校庭を1周する。

③途中で、トラブルを見つけたら、事情をきき、喧嘩だったら止める。

5年生の班員1名は、先生に知らせに走る。

④終わったら、昼休みに班長は日記を書き、胡桃沢先生に「今日の報告をする」

○ アンケートをとり、「言われてうれしい言葉を使おう」という運動を行う。（1月末から）

〈今後の予定〉

○ いじめを無くすための放送活動を行う。（3月から）

○ 隊員が、いじめ相談にのる。 ○ いじめ告発ポスト ○ いじめ防止子ども会議

○ 各クラスでいじめ防止標語を作り、いじめに対する決意宣言をする。